

水害・土砂災害対応マニュアル

介護老人保健施設 こずやサンプルク

1. 目的

このマニュアルは、大雨による河川の氾濫及び土砂災害等の恐れがある場合に対応すべき必要事項を定め、災害から人命を確保すると共に、被害の軽減に資することを目的に定める。

2. 平常時及び非常時の災害対策

(1)施設の立地条件

①一戸町においては、まだハザードマップは策定されていないが、過去に施設東側を流れる馬淵川が大雨により堤防を越え氾濫し、まべち棟（他の2棟より、4m位低い為）が床上浸水を2回経験している。その都度、岩手県による護岸嵩上げ工事が施工されているが、危険性が無くなったわけではないので引き続き注意が必要である。土砂災害に関しては、裏手に小高い小性堂部落を背にしているが、土砂災害危険箇所には指定されていない。しかしながら距離的に近い為、十分な注意が必要である。

(2)災害に関する情報の入所方法

①テレビ・ラジオ・インターネット等のマスメディアからの気象情報、警戒情報、避難準備情報、避難勧告、避難指示等の情報把握を行う。

②一戸町・岩手県などの防災関係機関と連絡を取り、必要な備えを行う。

(3)災害時の関係機関連絡先及び通信手段の確認

(名 称)	(電 話)	(F A X)
岩手県二戸保健福祉環境センター	23-9202	23-6432
一戸町役場	33-2111	33-3770
一戸町総合保健福祉センター	32-3700	32-3701
二戸地区広域行政事務組合	23-7772	23-7984
一戸消防分署	33-3119	33-2250
二戸警察署	29-0110	
小島谷駐在所	34-2110	
一戸病院	33-3101	32-2171

※職員への連絡先は、緊急連絡網による

(4)避難を開始する時期及び判断基準

①事前対策として、台風の接近などあらかじめ河川災害等の危険性が高まることが予測される場合は、夜間当直職員の増員やデイクアサービスの中止などを検討する。

②河川災害等の警戒情報が発令された段階で、災害対策体制を確立する。

- ・災害対策本部を設置する。(関係職員を招集)
- ・職員等への周知を行う。
- ・職員の確保策(招集)を検討する。
- ・避難方法等の確認を行う。
- ・近隣他施設との情報交換を行う。
- ・地域の情報を集める。
- ・設備・建物・環境の安全確認を行う。
- ・職員・利用者の安全確認を行う。

- ③避難準備情報・避難勧告が出された時及び次の情報を基に関係機関と調整の上総合的に本部長が判断し、避難を開始する。不在の場合は、その場における責任者が判断を行う。

【判断材料となる前兆現象】

《河川の氾濫》

- *短時間で危険水位を超え、強い降雨が続く。
- *堤防の川側が崩れ始める。
- *堤防の側面から水が漏れだしている。
- *堤防にひび割れが生じている。
- *堤防近くの地盤から水が噴き出している。

《土砂災害》

- *がけの表面に水が流れ出す。
- *がけから水が噴き出す。
- *小石がバラバラと落ちる。
- *がけの樹木が傾く、樹木の根が切れる音がする、倒れる音がする。
- *がけに割れ目が見える。
- *傾斜が膨らみだす、地鳴りがする、強烈な土の匂いがする。など

- ④避難指示が出された時は、直ちに避難する。

(5)避難場所及び経路・方法

- ①近隣の施設においては、当施設より避難者を収容できる施設はなく、構造的にも強いいため施設に留まり安全を確保する。その中で1棟だけ低いまべち棟の利用者を、上のふじしま棟へ避難誘導し、河川の氾濫等の危険より回避する。
- ②なお、建物が倒壊するなどの危険が及ぶ場合には、一戸町などの指示に従って避難する。
- ③避難場所への職員配置は、原則入所者の数に応じて職員を割り振る。
- ④避難先への移送にあたっては、避難先、避難者数を記録し、漏れなく避難させ、避難後のフォローも迅速に対応する。

(6)災害時の人員体制、指揮系統

本部長・・・施設長

部長・・・事務長

副部長・・・看護師長、入所主任、通所主任 ※不在の場合は、次の者が引き継ぐ

①各班編成

- ・指揮班・・・施設管理者の支援を実施し、各班への必要な事項を指示する。

(担当)事務主任、事務員

- ・情報班・・・一戸町・各自治体やメディア等から得た気象情報、災害警戒情報、避難準備情報、避難勧告、避難指示等の情報を把握し、指揮班に伝達する。また、確認・入手した情報(がけ崩れ・河川の氾濫等の前兆現象や被災した際の被害情報等)を適宜、一戸町・岩手県等の関係機関へ通報する。

(担当)支援相談員、介護支援専門員、庶務

- ・避難誘導班・避難準備情報、河川の氾濫(土砂災害)警戒情報及び避難勧告等が発令された場合や河川の氾濫(土砂災害)の前兆現象などを発見した場合に、利用者等を安全な場所へ避難誘導する。

(担当)入所副主任、通所副主任、その他職員

(7)避難誘導等の手順

<入所>

- ア. 情報班が一戸町・各自治体やメディア等から得た気象情報、災害警戒情報、避難準備情報、避難勧告、避難指示等の情報を把握し、逐次がけ崩れ・河川の氾濫等の前兆現象の観察を行指揮班に報告をする。
- イ. 指揮班は本部長に現状を報告し指示を仰ぐ。
- ウ. 本部長はその判断により必要があると認めた場合には、利用者非難及び緊急連絡網にて職員の招集指示を出す。
- エ. 入所看護・介護副主任またはリーダーは災害対応と利用者対応とに勤務職員を振り分ける。
- オ. 振り分けられた職員は以下のマニュアル従い協力して行動する。

①水害対応職員

指示出し：本部長または副部長及び主任級職員

- ・ 本部長の指示、命令を受け、地元消防団に連絡し土嚢の手配をする。
- ・ ブルーシートをまべち棟非常口に運ぶ。
- ・ ブルーシートをボイラー室（2箇所：外側の扉とエレベーター前扉）及びまべち棟非常口、エレベーター機械室、エレベーター扉にブルーシートを広げ土嚢を積み浸水を防ぐ作業を行う。
（ボイラー室内の排水口にもシート及び土嚢で出来る限りの対策を施す。）
- ・ 外部の見回り確認
- ・ 利用者対応の職員からの要請により分電盤の電源を落とす。

②入所利用者対応職員

指示出し：本部長及び看護師長またはリーダー

- ・ 本部長からの指示、命令を受けまべち棟利用者をふじしま棟へ誘導する。
※利用者に余計な不安を与えないよう冷静に声掛け、誘導を行う。
- ・ 誘導後はベッドマットをはずし2階へ運ぶ。
- ・ 入所看護師長または介護主任及び副主任またはリーダーは利用者の人数を確認し2階にあるベッドの不足分を職員に指示しまべち棟から運び上げてもらう。
- ・ まべち棟の残ったベッドに利用者の私物を載せ、電動にてベッドを最高の高さまで上げ、コンセントを抜く。
（利用者の私物の保護とベッドのモーターが水に浸かるのを防ぐ。）
- ・ カーテンをレールにかけるか、結んでなるべく高い位置に上げ、水に浸かるのを防ぐ
- ・ 階段下倉庫及びリネン室、ケアセンター内を確認し浸水の恐れがある物は高い場所に移動する。
- ・ 居室内を見回り床置き物がないか確認する。
- ・ 全ての作業が終了次第、水害対応職員に分電盤の電源を落としてもらい、職員は全員2階へ上がる。

※最終確認副部長及び看護師長または主任級職員が行う。

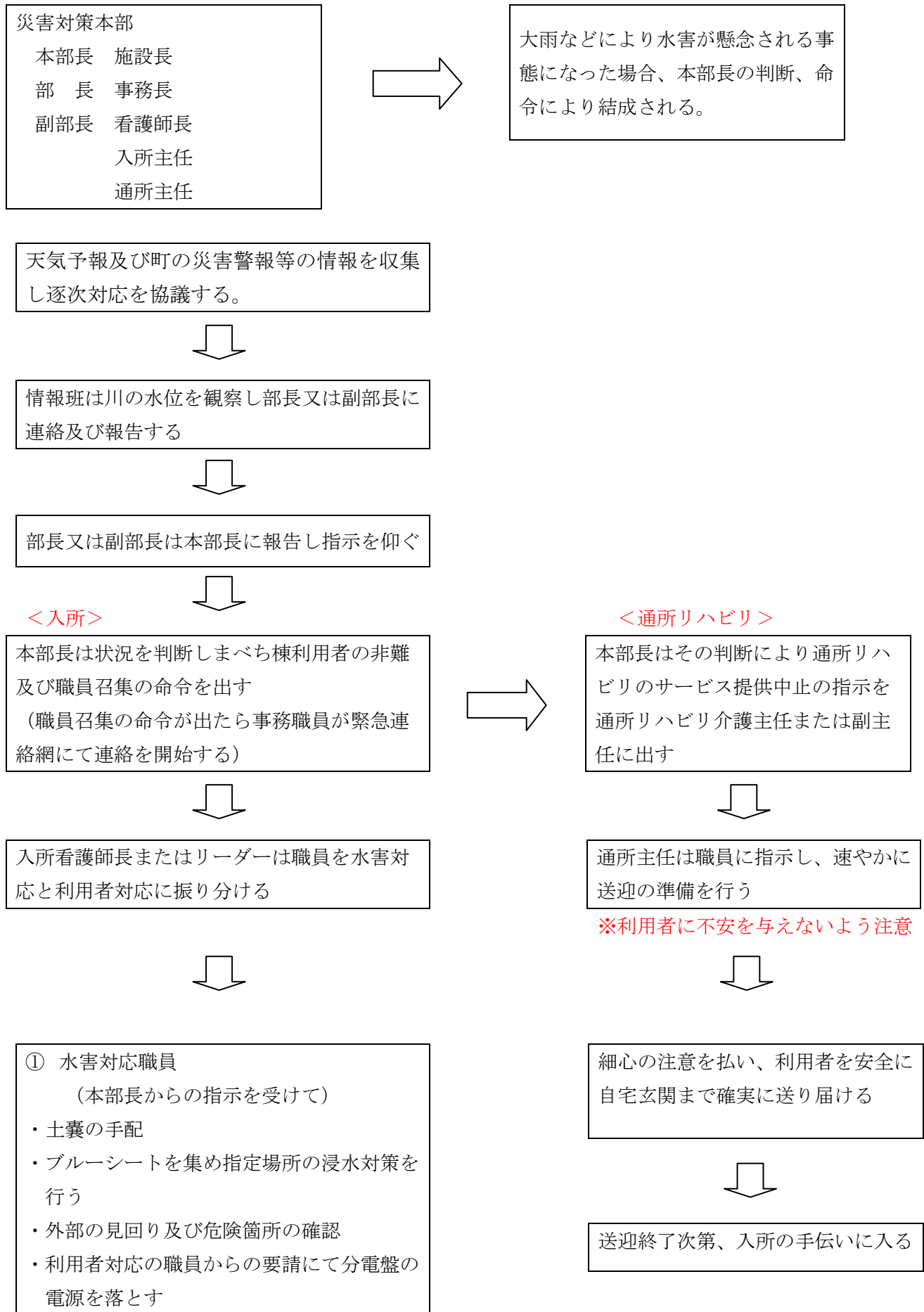
※入所利用者対応の看護師長またはリーダーは水害対応職員と連絡を取り合い、緊急連絡網で召集された職員が到着した順に利用者対応か水害対応か指示を出す。

<通所>

- ア. 情報班が一戸町・各自治体やメディア等から得た気象情報、災害警戒情報、避難準備情報、避難勧告、避難指示等の情報を把握し、逐次がけ崩れ・河川の氾濫等の前兆現象の観察を行指揮班に報告をする。
- イ. 指揮班は本部長に現状を報告し指示を仰ぐ。
- ウ. 本部長はその判断により必要があると認めた場合には、通所リハビリのサービス提供中止の指示を出す。
- エ. 通所リハビリ主任及び副主任は指示を職員へ伝え速やかに送迎の体制入る。
(その際、利用者に不安を与えないよう職員は冷静且つ迅速に対応すること)
- オ. 送迎は通常増して安全に配慮し、慎重に行い、利用者を確実に自宅玄関まで送り届ける。
- カ. 送迎から戻った職員は暫時入所へ手伝いに行く。

非難が完了した時点で本部長は、各関係機関に災害状況の報告をする。

水害等対策フローチャート





入所対応職員（本部長からの指示を受けて）

- ・まべち棟利用者をふじしま棟へ誘導
- ・ベッドマットをはずし2階へ運ぶ
- ・人数分のベッドを2階へ運ぶ
- ・私物等をベッドに乗せ最高まで高くし、コンセントを抜き、コードをベッド上に乗せる
- ・カーテンを上げる
- ・倉庫・リネン室・ケアセンターの荷物を確認する。（低い位置にある物は高い場所に上げる）
- ・居室内に残った荷物の確認
- ・全職員は2階へ移動する
- ・部長又は副部長及び看護師長又は主任級職員が最終確認をする
- ・外対応職員に分電盤の電源を落としてもらう

平成29年1月1日作成